

# 病児保育 DX ワークショップの開催（2025.2.22 開催）

## 開催目的

本学の教職員、理事、厚生労働省の所管となる方、自治体（下野市、栃木県等、こども家庭センター、ならびに医療や子育て関連部署）関係者、病児保育や子育て支援に興味関心を持つ自治体職員、医療関係者、市民の方を対象に、以下を目的として病児保育 DX ワークショップを開催した。

1. 厚生労働省・子育て世代の「医療職支援事業」に採択された。採択された事業企画書に「自治体と地域の施設への病児保育合同説明会の開催」と記載しており、地域の医療機関や保育施設と連携を強化するための情報交換の場を提供する。
2. 病児保育の問題や課題を整理し、全国に普及可能な支援モデルの議論と情報共有の場を設ける。
3. 地域の方々が利用しやすいように、地域の病児保育の問題と小児科領域の遠隔診療に関する議論と情報共有の場を設ける。

厚生労働省 令和6年度 子育て世代の医療職支援事業  
医療職のキャリア促進と医療機関の働き方改革を推進する病児保育のDX活用

## 病児保育DX

～誰もが利用しやすい病児保育を目指して～

2025年2月22日(主) 13:00～15:30 定員60名  
自治医科大学 立体駐車場棟 1階大会議室 事前参加登録

13:00～13:05 ◆開会挨拶 大槻 マミ太郎 (自治医科大学 副学長)

13:05～13:10 ◆企画概要説明 石川 由紀子 (医師・研究者キャリア支援センター センター長)

13:10～13:25 ◆仕事と育児の両立 ～こどもが病気の時どうする？～ 中村 香代子 (自治医科大学附属病院 医師)

13:25～14:10 ◆地域の病児保育の現状とこれから 病児保育予約サービスの操作をやってみよう 園田 正樹 (株式会社グッドボタン代表取締役 / 東京大学医学部 産婦人科学教室)

<休憩>

14:20～15:05 ◆小児科における遠隔診療の活用 遠隔診療体験～離れていても聴診器診察が可能に！～ 門田 行史 (医師・研究者キャリア支援センター アドバイザー)

15:05～15:20 ◆質疑応答

15:20～15:30 ◆閉会挨拶

お申込み 参加ご希望の方は右記のフォームよりお申し込みください  
締切 2025年2月14日(金)  
託児室の利用も可能です(会員のみ、先着6名)  
利用の際は下記までお問い合わせください

主催・お問い合わせ先 自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター  
☎0285-58-7561 (内線2448) ✉career-support@jichi.ac.jp

後援 下野市



## 参加者数

|    |    |
|----|----|
| 女性 | 38 |
| 男性 | 15 |
| 合計 | 53 |

## 学内・学内別参加者数

|    |    |
|----|----|
| 学内 | 21 |
| 学外 | 32 |
| 合計 | 53 |

## 参加者職種

|              |    |
|--------------|----|
| 自治医科大学職員・関係者 | 22 |
| 市外医療機関・病児関係  | 16 |
| 市内幼稚園・保育園    | 7  |
| 市役所関係        | 2  |
| 団体職員         | 1  |
| 民間企業         | 3  |
| 個人           | 2  |
| 合計           | 53 |



大槻 マミ太郎 副学長



石川 由紀子 センター長



坂村 哲也 下野市長



中村 香代子 氏



園田 正樹 氏



門田 行史 氏



門澤 香莉 氏

## ワークショップの様子



病児保育予約サービスの操作をやってみよう



遠隔診療体験-  
離れていても聴診器診療が可能に！

本イベントには学内の職員、市内外の病児保育・保育施設・医療施設・行政から53名が参加した。冒頭で石川センター長より、開催概要を説明した。中村氏（総合診療内科医師）による「仕事と育児の両立 ～こどもが病気の時どうする？～」では、お子さんが病気の際の罪悪感や不安感などの思いを共有した。“手続きを簡単にしてほしい” “料金面の負担を軽減してほしい”などの保護者の声が紹介された。

園田氏（株式会社グッドボタン/産婦人科医師）による「地域の病児保育の現状とこれから」では、3割の保護者にしか病児保育が利用されていない現状を共有し、ICTは利用しやすくするツールであることが紹介された。参加者のスマホに”体験版あずかるこちゃん“をダウンロードし、操作した。空き状況がすぐにわかり、入力しやすいインターフェイスであることが体験できた。“社会全体で子育てする社会を目指すべき”との考えを共有した。行政からの参加者からも「ICTの導入支援や周知に力を入れるべき」と共感を得た。

門田氏（小児科医師）の「小児科における遠隔診療の活用」では、遠隔診療を用いて、診療から処方箋を病児保育内で行い、利用者の出勤時間を早める取り組みの実装研究が紹介された。門澤氏（SOMPO Light Vortex）による「遠隔診療体験～離れていても聴診器診療が可能に！～」では、遠隔診療の機器であるTyto Care<sup>®</sup>を用いて各グループで実際に咽喉頭、鼓膜の観察と、肺音・心音の聴取を行った。参加者から「映像や心音肺音が鮮明に聞こえる」と驚きの声があがった。これらを通じて、病児保育のDX化がもたらす可能性が明確になり、今後の普及モデル構築に向けた議論が深まった。

## 参加者アンケート

### 回答者数

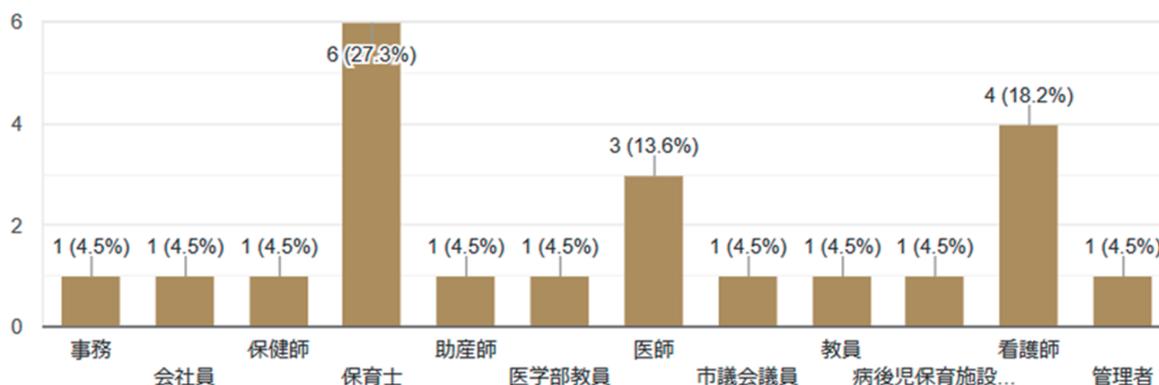
|    |    |
|----|----|
| 女性 | 19 |
| 男性 | 3  |

### 年代

|       |   |
|-------|---|
| 30代   | 4 |
| 40代   | 4 |
| 50代   | 8 |
| 60代以上 | 6 |

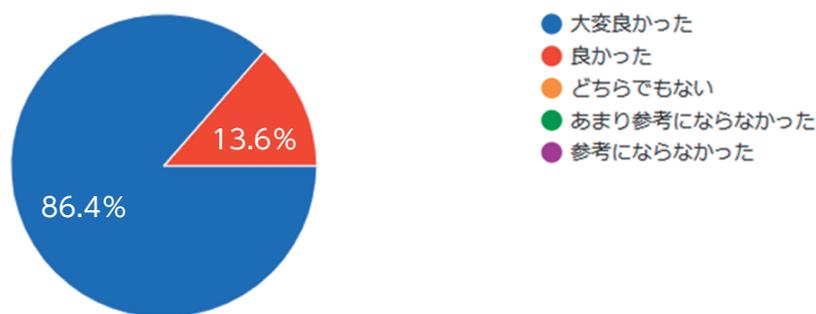
職業を教えてください。

22件の回答



本日のセミナーの内容について当てはまるものをご選択ください。

22件の回答



本日のセミナーで印象に残ったことや感想をお聞かせください。

- ・遠隔診療の体験。
- ・病児保育の課題と社会システムが連動していくべきなのだと学びになりました。
- ・LINEでの登録。
- ・病児保育の現状や最新の情報が得られました。
- ・予約サービス、遠隔診療。
- ・病児保育の現状を知り、行政の立場として、サービスの導入支援や周知に力を入れていく必要があると感じた。
- ・いろいろな分野でデジタル化はすすんでいるんだなぁと感じました。
- ・病児保育の現状、周知が足りていないこと。
- ・機械やアプリを使用できた事。
- ・自分の勤務する病児保育でもネットアプリによる予約、保育記録をしているが、保育記録に写真は載せていないので、保護者として、写真があると安心するという言葉は印象的で今後写真掲載をかんがえていきたいとおもいました。

- ・全般通じて非常に興味深い内容で、ためになりました。
- ・保護者が安心して使いやすい仕組みを整えていなければと思いました。今日はとても勉強になりました。
- ・現状やワークショップなど参加しなければ全く知らなかったことなど知ることができて色々な立場の方とお話できてとても有意義でした。まだ、機会があれば参加したいです。
- ・先生方のビッグデータの先にもっと効果的で誰にでも優しい地域医療の姿があるんだろうと思いました。利用者側だけでなく、支援者側が今回の取り組みによっていかに円滑な医療・福祉を提供できるようになったか、データでみられる時代がくることを期待しております。
- ・仕事と育児の両立の大変さを改めて考えさせられました。そのための病児保育。ずいぶん進歩して、利用しやすくなっていることにも驚きました。遠隔診療が、気軽に受けられるようになれば良いと願います。
- ・TytoCare が簡単に使え、使い方も広がると思いました。
- ・参加させていただきありがとうございました。大変学びが多く、充実した時間を過ごせました。また、参加したいです。
- ・充実した研修内容で、今後の病児保育の明るい未来につながる一歩となる日に立ち会えてとても光栄でした。
- ・実際に子育てをしている登壇者様のお声を聞きながら、下野市の取り組みをととても羨ましく拝聴しておりました。紙ベースの書類は保護者側も大変ですが、病児保育スタッフ側も正直手間です。受け入れ時に書類を確認すると記入漏れがあったり、記入することを知らない保護者の方から嫌な顔をされたり、お子様の様子が分からないため記入してもらえなかったりなど、スムーズにお預かりができないことも多いです。
- ・あずかるこちゃんや遠隔診療によって、保護者とスタッフ双方が分かりやすく使いやすいシステムに変わっていけば良いなと思いました。
- ・遠隔診療がもっと普及したら お年寄りや子供の通院の付き添い、待ち時間の軽減などいい事ばかりだと思った。
- ・とても有意義な研修でした。なかなか病児保育の研修というものがなかったので、今回の研修は学びが多かったです。病気の子を抱えて働く保護者の方が安心して預けられる環境がやはり必要なのだと思います。まだまだ利用する方が多いとはいえないですがこれからどんどん増えていくといいなと思います。保護者の子どもが病気の中預ける葛藤をしっかり理解することで、声かけなどもできると思うので、そういったところも大切にしていきたいです。
- ・予約アプリや、遠隔診療も普及することで使いやすい体制がととのえられるのがよくわかりました。まだ私の職場で実現したいと思っても難しいところがありますが、このようなことを自治体含めて普及してほしいとおもいました。
- ・お医者さんが御多忙にもかかわらず、多数参加して下さり、体験を聞かせてくれ容貌も素敵で、親しみやすかった。
- ・園児を遠隔診療で、診察して頂ける事と TytoCare の映像や心音 肺音が鮮明に聞こえる事に驚きました。
- ・これからの病児や病後児保育は、電話ではなくスマホで、予約をする、スマホで、病状を書込みいろいろ活用して今以上に働く親の手助けが、出来る保育園 幼稚園でありたい。
- ・病児保育DX に参加させて頂きありがとうございました。
- ・どのご講演も演習も興味深く、充実した内容だと思いました。どうもありがとうございました。

## その他ご要望

- ・大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- ・ますます病児保育の活動が発展される事をお祈りいたします。
- ・病児保育に従事しているスタッフ同士の交流の場を作ってほしいです。
- ・定期的開催して欲しい！沢山の施設が、開校出来る様に、働く両親が安心してお仕事出来るような栃木県にして頂きたい！有難う御座いました！